

## 施設キュウリにおける新規就農2年目の目標売上確保

対象者 甲賀市水口町 N氏

### 【普及活動のねらい】

N氏は、平成31年3月に農大就農科を修了し、父の水稲経営とは別に施設果菜部門として1,350㎡の鉄骨温室（少量土壌培地耕システム）で開始され、生産物はJAこうか水口町施設園芸部会員として市場へ出荷されています。

キュウリ栽培の経験を積み栽培技術の習得と向上を目指し、就農当初から3作連続してキュウリ栽培に取り組まれるとともに、半促成・抑制裁培の作型において栽培技術の習得と売上額確保に向けて支援しました。

### 【普及活動の内容】

基本的な栽培管理について自ら確認できるよう作業手順書（チェックリスト）を示し、週に1回程度ハウスへ訪れ必要な管理が実施できたか本人とともに確認を行いました。

また、実施できていない場合、いつまでに実施するのか再確認するなど適期に作業が実施できるよう作業の進捗と合わせて栽培技術の習得について支援しました。

しかし、半促成栽培ではコロナ禍により予定していたパートが手当できなくなり、労力不足により十分な栽培管理が行えず減収となりました。

このため、抑制キュウリ栽培では、早期に労働力を確保するとともに家族内で連携し必要な作業を分担実施することで適期に作業が完了するよう支援を行い収量と売上の確保を図りました。

### 【普及活動の成果】

今回、半促成と抑制キュウリ栽培に取り組まれた結果、目標とする売上には届きませんでしたが、作業手順をチェックしつつ基本的な栽培管理について経験を積まれたことにより今後目標とする売上が目指せるだけの技術を習得されました。

また、抑制裁培では、収穫から出荷までの作業の流れを踏まえ、パートの方が行う仕事内容についての的確に指示するなど、経営者としての気構えが感じられる場面も見受けられました。次作は、本来の作型である半促成トマト栽培に取り組む予定であり、農大就農科での栽培経験を活かしつつ新たな品種の導入など栽培への意欲も高まっています。今後も、今年度の反省点を踏まえ目標売上の確保に向け支援を継続します。



施設キュウリ栽培の様子



収穫されたキュウリ